

葬儀・葬列の写真は大事な民俗資料



1936(昭和11)年7月13日撮影と記されている葬儀写真。中央奥には輿(こし)がみえる。
浦幌町立博物館所蔵。

写真は1936年の浦幌町内での葬儀写真。博物館では、民俗資料として、こうした写真を集めています。

葬儀は、その地域の民俗を知る、ひとつの重要な文化形態です。しかし、葬儀のよすを撮影した写真などは、あまり公的には残されないことが多く、不明な点もたくさんあります。

新型コロナウイルス感染症の拡大で大きく変化したものに、人が亡くなったときに執り行われる葬儀があります。通夜や告別式が、家族単位の密葬で行われる形式が浸透し、従来のような大規模な葬儀が少なくなってきました。



博物館の窓

第87回

学芸員 持田 誠